

富山駅周辺商業施設ヒアリング調査の概要

■ 調査概要

調査目的	富山駅周辺における商業環境の現状、駅周辺の活性化に対する考え方の把握
調査時期	平成28年11月9日(水)～11月15日(火)
調査方法	事前記入された調査用紙に基づく対面ヒアリング
調査対象施設	富山駅周辺の商業施設 8施設(7事業者) マリエとやま、とやマルシェ(新幹線高架下)、クラルテ(改札横店舗含む)、 エスタ、C i C、ととやま、富山駅前さかな屋撰鮮、アーバンプレイス

■ 来店者の流動状況について

- ・来店者の多い(少ない)時期や時間帯について回答してもらった。

(1) 月別

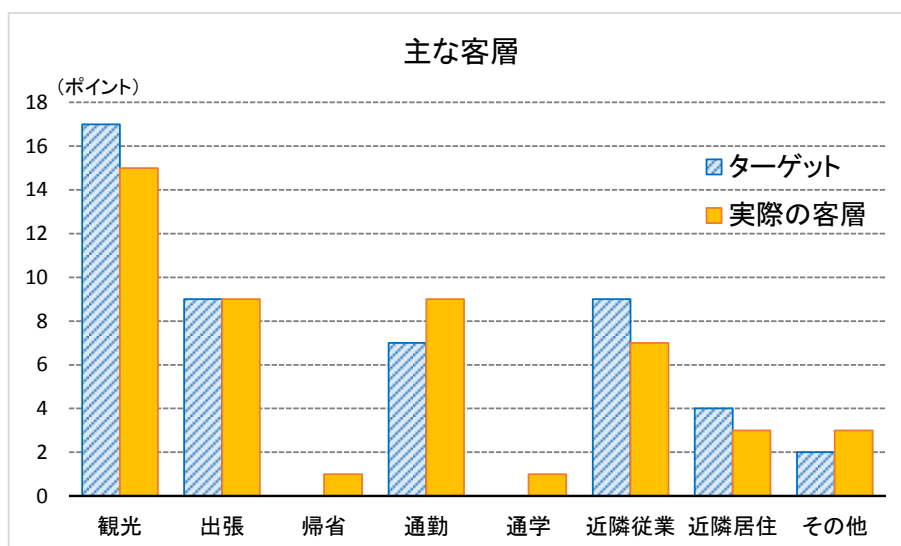
- ・来店者の多い月は「8月」との回答が約8割、少ない月は「2月」との回答が約7割となり最も多くなっている。(「8月」=夏休期間、「2月」=冬期間における客足の減少)

(2) 時間帯別

- ・来店者の多い時間帯は「17時台～19時台」が最も多く、次いで「12時台～13時台」。
- ・「夕方の時間帯」については、観光・ビジネス客の帰路における土産購入や飲食、地元客の帰宅時の利用が理由と考えられる。また、次点のお昼の時間帯は、飲食店におけるランチ需要が理由と考えられる。
- ・来店者数の少ない時間帯は、開店直後の「9時台～10時台」、ランチタイム終了後の「15時台～16時台」が多くなっている。

■ 主な客層について

- ・各商業施設が「ターゲットとしている客層」と「実際に多い客層」について、「観光客」「出張ビジネス客」「帰省客」「通勤客」「通学客」「近隣従業者」「近隣居住者」「その他」の8つの選択肢から、3位まで順位をつけて回答してもらった。
- ・集計にあたっては、1位を3ポイント、2位を2ポイント、3位を1ポイントとして、回答に乗じて点数化し評価した。
- ・「ターゲット客層」と「実際の客層」ともに「観光客」が最も多くなっており、次いで「出張ビジネス客」「通勤客」「近隣従業者」が多くなっている。
- ・「観光客」について、「ターゲット客層」と「実際の客層」の乖離は、一部商業施設において、想定よりも「通勤客」の利用が多かったことによる順位変動(ターゲット1位→実際2位)が理由である。
- ・「近隣従業者」「近隣居住者」については、複数の商業施設から、想定よりも客足が伸びていないとの回答を得ているところである。



■ 富山駅周辺の活性化に関する意見について

・富山駅を中心とする駅周辺全体の活性化に関する考えについて、自由記載で意見を回答してもらった。主な意見については以下のとおり。（下線部は、複数施設から同様な回答があった意見。）

項目	内容
商業施設間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>富山駅周辺の商業施設間のイベント共催、共同販促の仕組みや組織の構築</u> ○<u>中心商業地（総曲輪・西町）も含めた意見交換会の設置、イベント共催</u> ○商業施設間のコンセプト、商品政策の調整 ○他店舗の概要、取扱商品の情報共有化による周辺施設への誘導促進
案内・サイン	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>誘導サイン、案内図、案内看板等の充実（多言語標記も含む）</u> ○<u>看板、掲出物等の規制緩和（屋外広告物条例など）</u>
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ○早期の富山駅南北接続の完成 ○地下道の有効活用（イベントスペース等での活用） ○官民共同による総合案内所の設置（経費負担含む）
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○新県立美術館、環水公園等への駅周辺循環バスの導入 ○買い物客向けの託児所の設置
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○若者（中高生）を交えた考え方を取り入れるための仕組みの構築 ○富山駅周辺の車両規制（渋滞緩和） ○既存飲食店街での認証制度の創設（「とやま味の店」認定、マップ作成） ○休憩・仮眠ができるような温浴施設、宿泊施設（カプセルホテル）等の設置

■ 富山駅在来線高架下の開発に関する意見について

・今後の富山駅「あいの風とやま鉄道」高架下開発に関する考えについて、自由記載で意見を回答してもらった。主な意見については以下のとおり。（下線部は、複数施設から同様な回答があった意見。）

項目	内容
コンセプトなど	<ul style="list-style-type: none"> ○何よりも駅周辺の人通りが増えることが重要、富山駅全体として人を呼び込む仕組み等が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・高架下単独ではなく、駅全体を考慮した魅力あるエリアの構築 ・周辺施設と相乗効果が図られる斬新的な施設、店舗 ○<u>駅利用者以外の地元客や北陸三県からの誘客が図られる充実した施設になることを期待（県内外の方が「来たい場所」に）</u> ○地元企業が参画しやすいシステムづくり
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>商業施設にとってサイン・案内表示の充実は不可欠</u> ○東西自由通路をうまく取り込んだ「新幹線高架下と在来線高架下が空間として統一感」のある施設づくり <ul style="list-style-type: none"> ・東西自由通路は照明などの工夫によりもっと明るい雰囲気にするべき ○駐車場の確保 ○高齢者や婦人層を意識した施設整備（動く歩道等）
業種・テナント	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>商業施設である限り、ある程度の競合はやむを得ない</u> ○飲食店で統一して、周辺の飲食店との回遊が生じることを期待 ○飲食店など専門店街による「富山の新スポット」の創設 <ul style="list-style-type: none"> ・「富山らしさ」を重視 ・あえて周囲と調和しない異空間・レトロ空間的な施設もよいのでは ○<u>地元客の誘引となるナショナル・ブランドの出店</u> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺施設との棲み分け、運営主体の売上確保・経営安定化も考慮 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>現状の駅周辺施設との競合が懸念（お土産、飲食店関係）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・高架下は県特産品など物販を主として、駅周辺活性化の観点からも飲食店については、周辺既存施設へ誘導してほしい
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○ポイントカードや駐車サービスの共同運用 ○ストックヤードの共有などの効率化 ○登山客向けインフォメーションの設置（多言語対応）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○在来線高架下への進出を検討するにあたっては賃料が課題

【参考】ヒアリング調査対象施設 位置図

